ちばっ子地域安全マップづくり
マニュアル

千 葉 県 教 育 委 員 会

目　次

１　地域安全マップをつくろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２～７

Ⅰ　地域安全マップとは・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２
Ⅱ　地域安全マップになぜ取組むのか・・・・・・・・・　Ｐ２
Ⅲ　地域安全マップの授業例・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３

２　資料編（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　８～２１

・指導案例（指導計画・各時の流れ１～８時間）・・・・　Ｐ　９～１８
・振り返りカード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１９～２０
・フィールドワーク役割分担表・・・・・・・・・・・・　Ｐ２１

資料編（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２２～３７

・補助員説明会（研修会）次第・・・・・・・・・・・・　Ｐ２３
・「ちばっ子地域安全マップ」作成推進事業　　Ｐ２４～２７
・補助員説明会（研修会）資料　具体例・・・・・・・　Ｐ２８～２９
・補助員説明会資料
　「入りやすく」「見えにくい場所」の例示（写真入り）　Ｐ３０～３１
・平成 22 年度「ちばっ子地域安全マップ」
　　コンクール入賞作品集　Ｐ３２～３５
・平成 22 年度「ちばっ子地域安全マップ」
　　作成事業推進拠点校一覧　Ｐ３６～３７

参考資料はＰ７を参照

※　本冊子や各資料を参考に授業を行ってください。

地域安全マップをつくろう!!

Ⅰ　地域安全マップとは

千葉県の子どもたちが犯罪に遭わないように，身を守る知識や危険な場所を見極める力を養う（身につける）ことができるよう

○　「犯罪が発生しそうな危険な場所」はどんな場所か

○　「守ってくれる安全な場所」はどんな場所か

などを，子ども自身でフィールドワークを通して探し，話し合いながら地図にまとめることを「地域安全マップ」という。

その際の危険な場所のキーワードは,**「入りやすい場所」「見えにくい場所」**です。

（この地域安全マップ作製の活動は，犯罪の機会を与えないことによって，犯罪を未然に防止しようとする「犯罪機会論」の考えによるものです。）

※　地域安全マップは「犯罪マップ」や「不審者（情報）出没マップ」とは違う！

地域安全マップ作製の目的は，犯罪が起きやすい危険な環境を子ども自身が見極める力を養うことにある。単に，犯罪が起きた場所や不審者が出没した場所だけを書き込ませていくと，子どもたちは「その場所だけが危険で，他の場所は安全」と考えてしまう。つまり，同じように危険な環境でありながら，たまたま犯罪の発生がなかったり不審者が発生しなかった他の場所について,「危険な場所だ」と見極めることができない。

子どもたちに地域安全マップを作製させるときは,「犯罪が起きたから，不審者が出没したから危険な場所」と意識させるのではなく，子どもたちが「この場所は，こういう環境だから犯罪が発生しやすくて危険」,「この場所はこういう理由で不審者が出没しやすいから危険」と意識できるよう助言する。

したがって,「犯罪マップ」や「不審者（情報）出没マップ」,「危険箇所マップ」等とは違います。これらは大人が作製し，子どもたちに知らせるとよい。

Ⅱ　地域安全マップになぜ取組むのか

（１）どんな条件の場所が危険かを理解できる。

⇒　子どもの危険予測能力や危険回避能力が向上する。

（２）コミュニケーション能力が高まり，友だち同士，地域の大人とのコミュニケーションが深まる。

（３）子どもたちの活動や地域安全マップに触れることで，地域の大人との結びつきが強くなり，地域の大人の防犯意識向上も望める。

（４）地域に愛着を持ち，地域社会の安全に貢献する活動を通すことにより，子どもたちの非行防止にもつながる。

（５）防犯教育　≠　人間不信　…　「場所」に焦点をあてることで,「人を信じるな」という教育でなくなる。「犯罪を犯すのは人」だが,「助けてくれるのも人」である。

Ⅲ　地域安全マップの授業の例

（千葉県教育委員会教育振興部学校安全保健課安全室が立正大学教授小宮先生の実践を基に考えた例です）

授業は，「社会科」，「総合的な学習の時間」，「特別活動」，の時間を使い，各学校の年間計画に応じて授業計画を作成する。

小学校社会科３・４年下の教科書「安全なくらしとまちづくり」，「安全なくらしを守る」，「安全，安心，みんなのくらし」，「くらしを守る」等の単元で扱うことができ，また，総合的な学習等と組み合わせて実施することができる。（但し，ちばっ子地域安全マップ作製は，犯罪防止（防犯）のマップであることに留意ください。）

＜授業の流れ＞

時	時間 45 分	内　容　　※　内容の（　）はＰ４～７の説明の番号と該当する。	その他
		【事前準備】　　･･･※（１） ①事前準備（学年で指導内容の確認） 「場所」や「補助員」，「ルート」等の選定，準備 ○補助員への説明・研修会の計画立案※Ｐ17 参照 ②「地域安全マップ」の補助員の事前説明･研修会 ※(重要) （日が取れない場合は，フィールドワーク当日でも可）	
1	1 時間	【地域安全マップを知ろう】　･･･（２） 「地域安全マップ」の必要性，概略と載せる情報の決定	
		地図作製準備　　･･･（３）	
2	1 時間	【計画を立てよう】　･･･　（４） 「地域安全マップ」の作製計画を立てる 班編成や役割分担の決定	
3 ～ 4	2 時間	【地域を調べよう】　･･･（５） フィールドワークの実践（各班に補助員（指導員）１名以上はつくのがよい）	
		写真等のマップ作製資料の準備　　･･･（６）	
5 ～ 7	2～3 時間	【地域安全マップを作ろう】 地図づくり　　･･･（７）（協力願えたら，各班に補助員についてもらう） 発表会準備　　･･･（８）	
7 ～ 8	1～2 時間	【地域安全マップを発表しよう】　･･･（９） 地域の方々や保護者，関係機関の方，他学年等に聞いていただくとよい（授業参観日，学校公開日等も有効である）	
	適時	事後指導　　･･･（10）	

（１）地域安全マップの事前打合せと作製する地域の選定　〔指導者の作業〕

①　予め，班編成(子どもや学区の実態に応じて，５名～８名程度)を行い，必ず全ての班に補助員(学校職員，ＰＴＡ，地域の学校安全ボランティア・スクールガード等)をつける。複数が望ましいが，最低各班１名は確保する。その際，補助員は予め地域安全マップの学習やフィールドワークのポイント等の打合せ（研修･説明会）を行っておく。(フィールドワーク実施日当日でも可)

②　学校の周辺等で，子どもたちの発達段階に応じて,「入りやすく，見えにくい場所」を理解しやすい区域を選定する。　⇒　「危険箇所マップ」とは違い，（しかし，教員は学区内危険箇所マップや不審者情報等を把握しておく。）学区内すべてを網羅する必要はない。まとめにくくなり，多くの児童の意見に触れることも少なくなる。学校周辺で子どもたちの実態に応じて，危険な観点が理解しやすく，別の角度(ごみの不法投棄，落書き等ある)から分かりやすい場所を選定する。その際，２次的な要件として，時間や交通事情等も考慮する。

（２）地域安全マップについて　〔授業〕

①　「『地域安全マップ』はなぜ必要か」を考える

「危ない人」はどんな人？　…　容姿等で判断することはできない

「危ない＿＿＿」を考える　…　モノ，言葉 etc　⇒　「危ない場所」

②　危ない場所のキーワードは「見えにくい」「入りやすい」

③　どんな場所が「見えにくい」「入りやすい」場所なのか

「柵のある公園とない公園」,「高い塀で囲まれた公園と柵で囲まれた公園」

「隣に人が住んでいる公園といない公園」,「落書きやごみの多い公園とない公園」等

④　犯罪の起こりそうな場所(入りやすく見えにくい場所)に行かないことが大切

⑤　③で出た公園以外ではどんな場所が「入りやすく見えにくい場所」だろうか

⇒　マップの中にどんな情報を載せるかを決める。

【載せる情報の例】

入りやすい場所，見えにくい場所

・人がほとんどいない
・落書きやゴミが散乱している場所
・街灯が少なく，夜になれば暗い場所
・雑草や木で回りから見えにくい公園や荒地
・きちんと区切られていない
・高く長い塀が続く道（人の目がない）
・人の住んでいない(使っていない)建物
・電車や車の騒音で音や声が伝わらない場所

「ヒヤリ」「ハッと」したところ

何かあったら助けを求めることができるところ

・警察署，交番 ，こども 110 番の家 ・コンビニ(セーフティーステーション)　等

※大切なことは話合いやフィールドワークの中で，子どもたちが気づくこと。

当然，例示以外も出てきます。子どもたちの呟(つぶや)きを大切にしたい。

（３）地域の地図を準備　〔指導者の作業及び子どもたちの活動〕

子どもたちの使う地図を準備します。地図の作製が主たる目的ではないので，分かるものであれば良い。

※役所で作製したものや市販のもの(市販の場合は生徒分複製する場合は許可が必要。インターネット「フリー(無料)地図作製」サイトのものは無料)の活用も可能。（フィールドワークで活用）書き込みができるように大きめの地図を用意する。

（４）計画を立てよう　〔授業〕　〔子どもたちの活動〕

①（２）で学習した事項を参考に，どの場所の地図を作るかを話し合います。その際，いくつかの候補をあげても構いませんし，学校や授業計画の都合で，予めコースを指定してもかまわない。

②（１）で編成した班の中で，班長，副班長，地図係，写真係，インタビュー係等の役割を決める。自分自身の役割について確認する。

③子どもたちに，「入りやすい」「見えにくい」の危ない場所（犯罪が起こりやすい場所）のキーワードが理解されているか確認する。

（５）フィールドワーク（学校近辺をフィールドワークする）〔子どもたちの活動〕

①　事前に下記の留意事項を徹底する。（役割分担にもとづいて）

ア　帽子や目立つ腕章・タスキ等があれば身につける。

イ　単独行動はしない。

ウ　紙バサミやボード等にメモ用紙や地図などをはさむと便利である。

エ　道路は走らず，交通事故に遭わない様に交通安全に努める。

オ　「入りやすい」，「見えにくい」かを話し合いながらじっくり考える。

カ　人の顔や家の中などは勝手に写真を撮れない。理由を話し，許可をとる。

キ　インタビューも，きちんと学校名と学年，氏名，インタビュー理由を話して行うようにする。（必ず，子どもたちがインタビューをすること）

② 補助員（指導員）が１班に必ず１名以上はつく。補助員は交通安全等の子どもたちの安全に留意するとともに，ポイントで簡単な説明やロールプレイを行うなど，子どもたちの気づきや活動のきっかけ作りを行う。

その際，子どものつぶやきを大切に取り上げながら「入りやすく，見えにくい場所」を子どもに気づかせることが大切。

（６）写真等のマップ作製資料の準備　　〔指導者の作業 or 子どもたちの活動〕

子どもたちの撮った写真や模造紙，マジック，付箋等文具・用具の準備を行う。

まとめで使う地図の準備をしておいてもよいが，フィールドワーク終了後に班毎に作製させるのが望ましい。発表会に使えるように模造紙大のものがよい。

（７）地図（地域安全マップ）の作製（模造紙大が望ましい）　〔子どもたちの活動〕

フィールドワークを通して点検（調査）した犯罪が起こりやすい場所（危険な場所）や安全な場所を，グループごとに撮影した写真（危険な理由等）を貼って地図にまとめる。

<例示；各班に準備するもの>
○模造紙１枚　　○折り紙（色紙）　　○付箋（7.5×10cm 位）
○シール（青，赤，黄色等）　　○糊，テープ　　○色マジック（油性ペン）
○鉛筆，色鉛筆，消しゴム　　○新聞紙（模造紙の下に敷く）　等

< 手 順 >　～　班員で分担して作業する　～

①街なみ（道路，川，学校，公園，大きな建物等），同時進行で題字と班名を書く。家の持ち主の名前等は記載しない。（プライバシーに十分配慮させてください）

※大事なのは写真のコメント（危険な理由，安全な理由）なので，細かいところまで書く必要はない。従って，既存の地図にある道路地図にとらわれる必要はない。

②班のみんなで話合い，どの写真を使うか，危険な理由（写真を選んだ理由）を折り紙や付箋に書き込み写真と一緒に貼る。（必ず全員が写真 1 枚以上を選択し理由を書き込む）

※写真に写っている家の表札や車のナンバープレート等は必ず消す。（プライバシー保護の観点から）

③危険な場所がわかったら，どうすれば安全になるか等も話し合いながら作業を進め，コメントとして書くことも必要である。

④できたら，作製の授業にフィールドワークに参加してくれた補助員の方にも参加いただければ，写真の選定理由などについてもアドバイスがいただけ，子どもたちの作業が進むとともに理解が深まる。

（８）発表会準備　　〔子どもたちの活動〕

①発表会の約束を確認する。発表の式次第や発表時間，発表方法，質問等についての約束を確認する。

②発表の役割分担を決める。

③発表の内容（台本等）を決めて，練習する。その際，マップそのものの説明だけでなく，安全マップづくりで発見したことや，感じたことを中心に発表できるようにする。（全員が感じたことの発表等で活躍できる場所を設定する）

（９）発表会　　〔子どもたちの活動〕

発表会に地域の人や保護者，警察署員，学校安全ボランティア（スクールガード等）の方々，インタビューで協力いただいた人（他学年児童も含む）を招待すれば，マップつくりで学んだことが，地域全体（児童たち）に広がる。

発表会は，学級単独でもよいが，学年一緒に実施してもよい。

①地域安全マップを黒板や掲示板に掲示する。

②地域安全マップづくりを班毎に発表する。（必ず，全部の班が発表する）

③安全マップづくりを通して，点検（調査）結果や発見したこと，感じたことを発表する。必ず，班員全員に発表させる。

④参加者の意見や感想を聞くようにする。

※ 発表会を授業参観や学校公開日，文化祭等に実施するとより効果が上がる。

（10）事後指導

事後指導については，各学校の授業計画に沿って行う。（授業のまとめとして，振り返りカード等に記入させる，また，感想やわかったことなどを書かせたり，発表させたりすることもよい。）

※ 発表会とは別に，学習発表会や文化祭（地域文化祭）等で発表する。

※　備考

平成２２年度ちばっ子地域安全マップ作成拠点校で授業を実施した先生方に，授業実践についてのアドバイス（資料含む）や指導をいただくとより効果的に実施できると考えている。

また，千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課安全室「ちばっ子地域安全マップ」のホームページに資料を掲載している。

http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/anzenmap.html

＜参考文献・資料＞

○犯罪に強いまちづくりの理論と実践－地域安全マップの正しいつくり方－
立正大学教授（犯罪社会学）小宮信夫　著　　イマジン出版株式会社

○地域安全マップ作製マニュアル（三訂版）
立正大学教授（犯罪社会学）小宮信夫　著　　東京法令出版株式会社

○大東京防犯ネットワーク「子どもの安全対策」地域安全マップ作製
http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/kodomo/index.html

※　平成 22 年度の拠点校は別紙一覧のとおり。（Ｐ３６～３７参照）

資　　料　　編　（１）

（授業関連資料）

・指導案例

・振り返りカード

・フィールドワーク役割分担表

指導案例　　第４学年　総合的な学習の時間　学習指導案

指導者　　○○　○○
○○　○○

１　単元名　「地域安全マップ」をつくろう

２　単元について

（１）学校教育の今日的課題から

学校は，子どもたちの健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行うところであり，その基盤として安全で安心な環境が確保されなければならない。(略)・・・・・・・・・・・・・・。

(略)・・・教師による安全管理だけでなく，児童への安全教育を積極的に実施することで，危険を予測し，回避する能力をつけさせていくことが重要になっている。(略)・・・・学校が家庭，地域住民と連携・協力し，安全で安心な学校づくりを推進していくことが求められる。

（２）本校の学校教育目標及び安全教育の現状から

本校の学校教育目標は，(略)・・・・・・・・・・・・・・・・。児童一人一人が地域の中で，安心感を持って健全に日々の生活を送ることができるよう，安全教育の推進は欠かせないものといえる。

本校では，(略)・・・・・・・，安全対応能力を高める安全教育の推進を図ってきた。(略)・・・発達段階に応じて，注意を要する場所を中心に「地域安全マップ」作製を行うとともに，地域との連携を充実させながら，安全教育を推進してきた。他にも，多数の地域ボランティア団体による登校指導や下校時のパトロール，保護者や教職員による防犯パトロールが，現在も計画的に継続している。

（３）地域及び児童の実態から

本校の学区は，(略)・・・・・非常に見通しの悪い道路状況であり，田園や山林が広がっている地区や住宅が密集している地区と様々であり，住宅密集地といえども，時間帯によっては人通りが少なく，いろいろな危険が潜在している地域といえる。

(略)・・・・・・・・児童は学年が上がるごとに行動範囲が広がり，人通りの少ない通りを一人で行動している場面も見られ，学区に隠れている危険に対する認識をさらに高めていく必要がある。

本学級(学年)の実態調査結果は，

＜実態調査質問　例＞

○　犯罪が起こりやすい場所は，どんな場所だと思いますか。

○　学校の周りで，犯罪が起こりやすい場所はどんな場所だと思いますか。

○　犯罪にあわないために，どんなことに気をつけたらいいと思いますか。

○　学校の登下校時や遊びに出かけた時などに，犯罪にあわないためには，どんなことに気をつけたらいいと思いますか。

○　犯罪にあわない安全な場所は，どんな場所だと思いますか。

（略）　調査結果・・・・・・

実態調査結果から児童は，(略)・・・・・・・・

以上のことから，地域の状況を踏まえ，防犯に対する意識を高めたり，危険なところは自らの判断で回避できるような力である「危険予測能力」を児童一人一人に身につけさせるとともに，高めていく必要がある。その手立てとして，(誰もが)「入りやすい」，(誰からも)「見えにくい」をキーワードとして，犯罪が起こりやすい場所を補助員（防犯ボランティアや地域住民，保護者等）の協力を得ながら，フィールドワークを通して確認し，それらをグループで話し合いながらマップを作製し，発表会で伝え合う「地域安全マップづくり」に取り組むことが有効であると考えた。

また，この学習を通しながら，人を見ただけでその人が不審者かどうか判断することは不可能であることを知ることにより，「人」に注目するのではなく，「場所」だけに注目して，人を信じなさいという基本と，子どもの安全を両立させることができるのです。

3　目標

○　地域安全マップづくりの意義を話し合い，どんなところが危険な場所(「入りやすい」「見えにくい」)なのか課題をもって取り組むことができる。

○　具体的に調べる計画を立て，実際にフィールドワークをしながら，必要な情報を収集し，整理することができる。

○　調べてわかったことをもとに，地域安全マップにまとめ，よりよい表現方法を考えて伝えることができる。

○　学習した「入りやすい場所」「見えにくい場所」を意識して行動するなど，地域安全マップづくりを自分たちの生活に生かそうとしている。

4　指導計画（７～８時間）

学習過程	学習内容と活動	評価◎・支援※
であう（1）	○　危険な場所はどんな場所かをつかむ。 ・動画を見て，地域安全マップについて知る。 ・動画を見て，どんな所が危険な場所なのか話し合う。 ○　マスクやサングラス，帽子等を着けた人を見て意見を言わせる。 ○　学習の見通しをもつ。	○　動画を見て,安全な場所と危険な場所について話し合う。 ◎　「入りやすい場所」「見えにくい場所」が危険な場所であることを知り，地域安全マップづくりの課題をもつことができる。 ※　動画を振り返り,「入りやすい場所」「見えにくい場所」が危険な場所であることに気付けるようにする。 ○　人を見ただけで不審者であるという判断はできないことを知ることができる。 ○　見通しをもつことにより，これからの学習に意欲的に取り組めるようにする。
つかむ（1）	○　フィールドワークのために必要なことを話し合い，準備をする。 ・班編成をする。 ・コースや役割を分担する。 ・方法や準備，留意点などについて話し合う。	○　フィールドワークを行うために必要なことを話し合い，意欲を高めるようにする。 ◎　フィールドワークをするための，計画を立てることができる。 ※　校外に出て学習をするために必要な事柄について，具体的に支援する。
つきつめる（4）	○　フィールドワークをする。 ・「入りやすいかどうか」「見えにくいかどうか」について話し合いながら，実際に歩く。 ・気付いたことをメモしたり，写真を撮ったりする。 ・地域の人などにインタビューする。 ○　地域安全マップづくりをする。 ・地域安全マップのつくり方を知る。 ・「入りやすく見えにくい」の場所がわかるように安全マップにまとめる。(街並み，写真等)	○　安全に気を付けてフィールドワークができるようにする。 ◎　フィールドワークをして「入りやすい場所」「見えにくい場所」をさがすことができる。 ※　キーワードを大切にしながら，話し合いの中で気付かせていくようにする。 ○　他のグループに伝えることを確認し，意欲付けを図る。 ◎　「入りやすい場所」「見えにくい場所」を分かりやすくマップにまとめることができる。 ※　フィールドワークの時のメモや写真，インタビューをもとに，調べてわかったこと，気付いたこと，感じたことを想起させながら，話し合いながら作成するようにする。

まとめる（1～2）	○　発表する。 ・作成した地域安全マップを発表し，他のグループや保護者，地域に伝える。 ○　学習を振り返る。 ・学習を振り返り，まとめをする。 ・犯罪にあわないように，これからどのようにしたらよいかを話し合う。	◎　「入りやすい場所」「見えにくい場所」をキーワードに，自分たちが作成した地域安全マップを分かりやすく伝えることができる。（主体的創造的な態度） ※　危険な場所がどのような所なのか，キーワードを落とさずに伝えられるように支援する。 ◎　危険な場所，安全な場所を意識して行動するなど，地域安全マップづくりを自分たちの生活に生かそうとする。（自己への振り返り） ※　地域安全マップづくりをこれからの生活に生かそうとしている発言を広め，学習したことを生かそうとする気持ちを高めるようにする。

5　学習の流れ

（1）本時の学習（1／7～8）

① 本時の目標

○　「入りやすい場所」「見えにくい場所」が危険な場所であることを知り，地域安全マップづくりの課題をもつことができる。

② 展開

時配	学習活動と内容	評価◎・支援※
3	1　学習の流れをつかむ。	
	○　今までの生活の中で，防犯上「危険だな」「あぶない」と感じたことがないか話し合う。	○　話が出ないときは，最近の事件について話すようにする。 ○　犯罪や事件に巻き込まれないようにするための学習であることを告げる。
2	○　マスクやサングラス，帽子等を着けた人を見て意見を言わせる。	○　見た目では人を判断できないことを知らせ，人ではなく，場所に注目させるようにする。
2	○　動画を視聴する。	○　「大東京防犯ネットワーク」の動画を見る。
	2　本時のめあてを確認する。 危険な場所はどんなところだろうか考えよう。	
30	3　危険な場所はどんな場所かをつかむ。 ①　どちらが危険な場所かワークシートに記入する。 ・道路　・公園 ・駐車場　など	○　ワークシートには，なぜ危険なのかを書かせるようにする。

8	② どんな所が危険な場所なのか話し合う。 ・人通りが少ない所 ・暗い所 ・見えにくい所 ・木などが多く見えにくい所 など	○ 「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードをもとにして話し合わせるように助言する。
	③ 動画を見て，地域安全マップや危険な場所はどんな場所か知る。 ・入りやすく＋見えにくい⇒危険 ・入りにくく＋見えやすい⇒安全	◎ 「入りやすい場所」「見えにくい場所」が危険な場所であることを知り，地域安全マップづくりの課題をもつことができる。（課題設定力） ※ 動画を振り返り，「入りやすい場所」「見えにくい場所」が危険な場所であることに気付けるようにする。
	4 本時のまとめをし，学習の振り返りをする。 「入りやすい場所」「見えにくい場所」が危険な場所である。	○ 「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードを提示し，視覚的に捉えやすいようにする。
	○ 振り返りカードにより，本時の学習を振り返る。	○ 人に注目するのではなく，場所に注目することを再度確認する。
	○ 学習の見通しをもつ。 ・地域安全マップをつくる。 ・フィールドワークする。 ・計画を立てる。（班編成・コース）	○ 一人一人の振り返りを称賛し，次時への意欲付けを図るようにする。 ○ 見通しをもつことにより，これからの学習に意欲的に取り組めるようにする。

（２） 本時の学習（２／７～８）

① 本時の目標

○ フィールドワークをするための，計画を立てることができる。

② 展開

時配	学習活動と内容	評価◎・支援※
2	1 本時のめあてを確認する。 フィールドワークの計画を立てよう。	○ 学習の流れの掲示物を提示し，前時の学習を想起させるとともに，学習のめあてを明確にする。

3	① グループ編成をする。 ② コースを決める ③ 役割を分担する。 ④ フィールドワークのルールを確認する。	○　フィールドワークのために必要なことを確認する。
１２	3　班編成とコースを決める。 ① グループ編成…４グループ ② コースを決める…(例４コース) ○ 東門→５区の公園→○→西門 ○ 西門→○寺→○地区→正門 ○ 西門→プールの裏→○幼稚園→旧○○付近→東門 ○ 正門→○団地→商店街→東門	○　調査地区（コース）は，グループ数あればよいが，出発方向を変えることで，学校近辺で少ない調査地区(コース)でもよい。 ○　５名から７名ぐらいのグループにする ○　調査地区の地図を用意し，調査するコースを決め記入させるようにする。
２０	4　グループごとに分かれて役割を分担する。 ① 仕事の内容を確認し係を決める。 ○　班長 ○　副班長 ○　地図係 ○　写真係 ○　インタビュー係 ② 係の準備をする。 ○　必要なものを準備する。 ○　練習をする。	○　係やその仕事の内容は，資料や掲示物で知らせる。 ○　必ず全員に係を分担するようにする。 ◎　フィールドワークをするための，計画を立てることができる。 ※　校外に出て学習をするために必要な事柄について，具体的に支援する。
3	5　フィールドワークのルールを確認する。 ○　単独行動はとらない。 ○　交通ルールを守る。 ○　走らない。 ○　写真の撮り方　など	○　掲示物により，短時間で確認できるようにする。 ○　掲示物を使い前時で学習したことを想起させ,「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードを確認するようにする。
5	6　本時の学習の振り返りをする。 ○　キーワードを確認する。 ・入りやすく＋見えにくい⇒危険 ・入りにくく＋見えやすい⇒安全 ○　振り返りカードにより，本時の学習を振り返る。	○　グループごとに振り返りをする。 ○　フィールドワークで調べたことを地図にまとめることを知らせ，次時への意欲づけを図るようにする。

（3）本時の学習（３・４／７～８）

③ 本時の目標

○　「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードをもとに，安全な場所や危険な場所を考えながらフィールドワークをすることができる。

④ 展開

時配	学習活動と内容	評価◎・支援※
１０	１　本時のめあてを確認する。 「入りやすい場所」「見えにくい場所」をさがしにフィールドワークに行こう。	
	①「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードを確認する。 ・入りやすく＋見えにくい⇒危険	○　キーワードを提示し，前時の学習を想起させるとともに，学習のめあてを明確にする。
	②「入りやすい場所」「見えにくい場所」のイメージをもつ。	○　学校付近の「入りやすい場所」「見えにくい場所」確認し，イメージ化を図れるようにする。
５	２　フィールドワークのルールを確認する。 ○　単独行動はとらない。 ○　交通ルールを守る。	○　掲示物により，短時間で確認できるようにする。
	○　走らない。 ○　写真の撮り方。　　など	○　写真を撮るときには，プライバシーに十分留意させる。
７０	３　フィールドワークをする。 ① グループごとにフィールドワークをする。(4コース例示) ○　東門→○公園→○○→西門 ○　西門→○寺→○地区→正門 ○　西門→プールの裏→○幼稚園→旧○付近→東門 ○　正門→○団地→商店街→東門	○　役割分担に従って，コミュニケーションを図りながら写真を撮ったり地図に書き込んだりする等，じっくりと話し合いをしながら，フィールドワークができるように支援する。また，安全な場所など，プラス面にも気づけるように言葉かけをしていく。 ○　ポイントとなるような場所に気づかない時は，教師や補助員側から助言し，足を止めて話し合うようにする。
	②「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードをもとに，立ち止まって話し合う。	○　写真をとった場所はなぜとったか，その理由をメモさせておく。 ◎　フィールドワークをして,「入りやすい場所」「見えにくい場所」を探すことができる。

5	③　写真を撮ったり，気づいたり，考えたりしたことを地図に書き込む。 ④　途中，地域の人に出会ったらインタビューをする。 4　本時の学習の振り返りをする。 ○　振り返りカードにより，本時の学習を振り返る。	※　常に２つのキーワードを大切にしながら，話し合いの中で気付かせていくようにする。 ○　グループごとに振り返りをする。 ○　「入りやすい場所」「見えにくい場所」を見つけられたことを称賛し，次時への意欲付けを図るようにする。

（４）本時の学習（５・６／７～８）

①本時の目標

○　フィールドワークの時のメモや写真，インタビューをもとに，調べてわかったこと，気付いたこと，感じたことを想起させながら，「入りやすい場所」「見えにくい場所」を分かりやすくマップにまとめることができる。

②展開

時配	学習活動と内容	評価◎・支援※
3	1　本時のめあてを確認する。	○　学習の流れの掲示物を提示し，前時の学習を想起させるとともに，学習のめあてを明確にする。
	フィールドワークで調べたことを地図にまとめよう。	
7	2　地域安全マップの描き方を知る。 ① 街並みを描く。 ② 写真を貼る。 ③ コメントを書き込む。	○　資料を使って，地域安全マップの描き方の手順を理解させる。
６０	3　グループごとに，調べたことを地図にまとめる。 ① 街並みを描く。 ○　調査地区の道路を中心に描く。 （必要があれば，川，学校，建物などを描く。）	○　フィールドワークで，「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードをもとに発見した危険な場所や安全な場所を地図にまとめさせるようにする。 ○　大事なのは写真のコメント（危険な理由）なので，あまり細かく描かせないようにする。（特定の場所でなくてもよい） ○　撮影した写真をすべて貼り付けられないので，グループ内でよく話し合って決めるようにする。

２０	② 写真を貼る。 ○　危険な場所や安全な場所の写真を張り付ける。 ③ コメントを書き込む。 ○　写真の場所のコメントを書く。 4　本時の学習の振り返りをする。 ○　発表の練習をする。 ・役割を決める。 ・練習をする。 ○　振り返りカードにより，本時の学習を振り返る。	○　家の表札や車のナンバープレートなど，持ち主がわかる場合には，マーカーなどで消すようにさせる。 ○　必要に応じて写真をいろいろな形に切り抜くようにさせる。 ○　コメントに書く内容を別紙（メモ等）に書かせておく。 ○　コメントについては，「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードをもとにグループ内で十分に話し合わせるようにする。 ○　必要に応じて，写真の場所の危険な理由（または安全な理由）についてのコメントをいろいろな色の折り紙や付箋に書き込み，写真のそばに貼り付けるようにさせる。 ○教師や補助員は，コメントについて２つのキーワードに照らして助言をする。 ○　「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードをもとに発表させるようにする。 ○　地域の人，保護者，他学年児童等を招いて発表会をすることを知らせ，次時への意欲づけを図るようにする。 ○　グループごとに振り返りをさせる。

（５）本時の学習（７・８／７～８）

①本時の目標

○　地域安全マップをより良い方法で伝えることができる。

○　学習した，「入りやすい場所」「見えにくい場所」を意識して行動するなど，安全マップづくりを自分たちの生活に生かそうとする。

②展開

時配	学習活動と内容	評価◎・支援※
3	1　本時のめあてを確認する。	○　第１時間目の資料をもとに，「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードを想起させる。
	地域安全マップを友達や地域の人や親たちに発表しよう。	

２５	２　「地域安全マップ」を紹介し合う。 ○　グループごとにフィールドワークをして作成した地域安全マップをもとに発表する。 ・東門→○公園→○○→西門 ・西門→千仏寺→西宮地区→正門 ・西門→プールの裏→○幼稚園→旧○付近→東門 ・正門→○団地→商店街→東門 	○　自分たちが調べた場所との共通点はないか，普段歩いたり遊んだりする場所で，同じような場所はないかなどの，聞く時の視点をもたせるように助言する。 ○　説明している場所がどこなのか，全体図でイメージできるようにする。 ○　マップ作製授業をしての感想を簡単に言うようにさせる。 ◎　自分たちが作成した地域安全マップをより良い方法で伝えることができる。 ※　「入りやすい場所」「見えにくい場所」のキーワードを使って，わかりやすく伝えるようにする。
１０	３　地域の人や保護者，他学年児童の話を聞き，自分の考えを整理する。 ① 発表に関連した感想や他の視点での意見を聞く。 ② 安全マップづくりの発表や地域の人の話を聞いて考えたことや気付いたことをカードに記入し発表する。 ③ 地域の人と協力して，より安全な地域をつくっていこうとする意識をもつ。	○　地域には自分たちを見守ってくれる大人がたくさんいることに気付くようにする。
7	４　学習のまとめをする。 ○　安全マップづくりを通して考えたことや気付いたことを振り返りカードに記入する。 ○　大切な自分を守るために学習したことを生かそうとする。 ・危険な場所（「入りやすい場所」「見えにくい場所」）に気付き，行かないようにする。 ・一人で行かない。 ・どうしても通らなければならない場合は，何人かの複数，または，大人と一緒に通る。	◎　犯罪者にねらわれやすい危険な場所は，どんな場所なのかについて理解し，それを日常生活の中でも，他の地域でも生かそうとする。 ※　犯罪者にねらわれやすい危険な場所は，どんな場所なのかについて再度確認し，他の場所でも生かせるように助言する。

振り返りカード　総合的な学習　　〇〇っ子地域安全づくり

年　　組　　名前（　　）

活動のめあて（全体）
〇　身近にある「犯罪が起きそう（危険）な場所」について理解し，協力して地域安全マップをつくろう。 〇　地域安全マップづくりを通して，危険を予測し，自分自身を危険から守る力を伸ばそう。

（　　）班　　班名（　　）

※班員で話し合って，班としての活動のめあてを決めよう。

活動のめあて（班）

※班のめあてを達成するための自分のめあてを決めよう。

活動のめあて（自分）

◇学習の見通し

＜学習の予定＞

調べ方・活動の仕方	発　表　の　仕　方

＜学習計画表＞

月・日（曜）		学習したこと	ふり返り	次回の予定
つかむ	① ／ 校時	地域安全マップって何？		

月・日（曜）		学習したこと	ふり返り	次回の予定
調べる	② ／ 校時	マップづくりの計画を立てよう。（班編成・コース等）		
	③④ ／ 校時	フィールドワークで調査		
まとめる	⑤⑥ ／ 校時	地域安全マップをつくろう。		
	⑦ ／ 校時	発表会の準備をしよう。		
伝える	⑧ ／ 校時	地域安全マップの発表会をしよう。		

＜学習のまとめ＞

班のまとめ	学習を終えての感想
自分のまとめ	

ちばっ子地域安全マップフィールドワーク役割分担表

年　　組　　班名（　　）

氏名（　　）

係（担当者名）	仕　事　内　容
班長（　　）	・みんなの代表になり，行動や意見をまとめる。 ・「入りやすく」「見えにくい」か，みんなに考えを聞く。
副班長 （　　）	・班長の手助けをし，みんなの意見をまとめる。 ・交通安全の決まりやルール，インタビューのマナーに気を配る。 ・班員の作業を取りまとめる役割。（進んで手助けするなど）
地　　図 （１人～２人） （　　） （　　）	・道順や危険な場所や写真さつえいした場所を地図に記入する。 ・インタビューした場所を地図に記入する。 ＜みんなに＞ ・番号を書いて，その場所についての考えを書いておくようにいう。
写　真（カメラ） （　　）	・危険な場所や安全な場所をさつえいする。 （写真を写した場所は，地図係に言って記入しておいてもらう。） ※人の顔，表札，家の中などさつえいしないようにする。
インタビュー（１人～　２　人） （　　） （　　）	・地域の人やお店の人に笑顔でていねいにインタビューする。 ・犯罪が起こりやすい場所だと思うところと安全を守ってくれているものや場所をうかがう。 ※子どもに対する被害体験のインタビューはしない。
補　助　員 （　　） （　　）	・班員とともに行動し，交通事故等にあわないように，一歩下がって全体を見ながら道路を歩く。 ・子どもたちが不審者等の「人」ではなく，犯罪が起こりやすい「場所」に着目させる手助けをする。

＜インタビューの方法　例＞

１．あいさつ　　会った方　→→　「こんにちは（おはようございます）」
（訪問した時　→→　インターホンを押す。（声をかける）「こんにちは」）

２．自分の紹介　　○○小学校○年○組の「○○○○」です。

３．目的を知らせ，許可を得る　　今，学校で地域安全マップをつくっています。申し訳ありませんが，少しお話を聞かせていただ　　きたいのですが，お時間はありますか。

４．聞きたいこと（例）　①犯罪にあうかもしれないと不安になる場所はありますか？
または 犯罪が起こりやすいと不安になる場所はありますか？
必要があれば，②犯罪にあわない安全な場所はありますか。

５．話の内容が
・理解できなかった場合→→　・もう少し詳しく教えてください。
・○○ということですかと確認する。
・聞こえなかった場合　→→　・もう一度お話していいただけますか。

６．お礼を言う　　ご協力ありがとうございました。
（場合によっては伺う。お名前と電話番号を伺ってもよろしいですか。）

資　　料　　編　（２）

（補助員等説明関連資料）

・説明会，研修会次第

・「ちばっ子地域安全マップ」作成推進事業

・補助員説明会（研修会）資料　具体例

・「入りやすく」「見えにくい場所」の例示（写真入り）

・平成 22 年度「ちばっ子地域安全マップ」
コンクール入賞作品集

・平成 22 年度「ちばっ子地域安全マップ」
作成事業推進拠点校一覧

補助員説明会（研修会）次第

補助員説明会（研修会）

１　はじめの言葉

２　学校代表あいさつ

３　説明事項

（１） 地域安全マップづくりについて
　① 地域安全マップづくりとは
　② 今まで作製してきた安全マップとの違いについて

（２） 補助員の役割･活動について

（３）

４　質問応答

５　終わりの言葉

平成２３年度

「ちばっ子地域安全マップ」作成推進事業＜防犯＞

この事業は，千葉県警察との連携・協力のもとに実施するものである。

平成２２年度のちばっ子地域安全マップ作成推進拠点校の
実践をもとに，県内市町村内の全公立小学校（千葉市を除く）で，
４年生が「地域安全マップ」づくりの授業を実施する。

「地域安全マップ」づくりってなに？

児童が地域を点検し，誰もが「入りやすく」，誰からも「見えにくい」場所（犯罪が起こりやすい場所）を地図にあらわしたものが「地域安全マップ」である。

この「入りやすく，見えにくい」というキーワードをしっかりと意識しながら，フィールドワークを通して，実際に犯罪の起こりやすい場所はどんな場所なのかを子どもたちに実感させる。その後，グループで意見を出し合いながら地図を作製し，その地図を使って発表をすることで犯罪が起こりやすい場所についての確認と犯罪に対する危険予測能力や危険回避能力を育てようとするものである。（犯罪の起こりやすい「場所」に注目させる。）

さらに，フィールドワークでの地域の方々へのインタビューや発表会を地域の方々へ公開するなど，「地域安全マップ」づくりの学習を地域へ発信することで，地域の防犯意識の高揚にもつながることが期待できる。それにより，「地域の人々が，私たちを見守ってくれている」という気持ちも子どもたちに伝わる。

「地域安全マップ」づくりにはどんな効果があるの？

（１）子どもの「危険予測能力」や「危険回避能力」を身につける
（２）子どものコミュニケーションの能力の向上（インタビューなどを通して）
（３）子どもの地域への愛着心の向上（フィールドワークを通しての発見等から）
（４）地域・大人の防犯意識の向上（フィールドワークや発表会を通して地域の方々や保護者，防犯団体等にも理解され，児童生徒の安全確保の活動につながる）
（５）子どもの非行防止
（地域に愛着を持った子どもは，
自分の地域にダメージを与える
ような犯罪には関わらない傾向にある）

「地域安全マップ」づくりの授業の流れ

事前準備 ⇒ 事前指導 ⇒ 班編成 ⇒ フィールドワーク ⇒ 地図作成 ⇒ 発表会

事前準備（教員）	○「補助員」や「フィールドワーク場所」や「ルート」等の選定をする。 ○「班の数」を決める。 ○「地域安全マップ」の補助員の事前説明（研修）会の開催
事前指導	○誰もが「入りやすく」，誰からも「見えにくい」場所を，簡単なイラストや映像などの資料を使って，説明する。
班 編 成	○人数は１班５～８名程度とし，教員が役割分担を決める。（児童の希望を聞きながら） ○子ども全員が参加意識を持てるように，全員に役割（班長･副班長・地図係・写真係・インタビュー係）を分担する。（子どもたちの準備）
フィールドワーク	○子どもたちは班に分かれ，補助員（地域の防犯ボランティア等；各班に１名以上）と一緒に，誰もが「入りやすく」，誰からも「見えにくい」というキーワードを使いながら，地域の「犯罪が起こりやすい場所（危険な場所)」を調査（点検）していく。（インタビューも含め）
地図作製	○班ごとに，フィールドワークで収集した写真や情報を使って全員で地域安全マップを作製する。(全員が写真選定の理由を１枚以上は書く） ※この時間も補助員に入っていただけると考えが深まる授業になる。
発 表 会	○地域安全マップを掲示して，調査結果，マップづくりの感想などについて全員が発表する。（地域・保護者・警察署員・他学年等招いて）

フィールドワークのポイント

【Ｐｔ１】
・補助員にはお願いしますのあいさつをする。
・単独行動はしない。
・道路は走らない。
・「入りやすいかどうか」，「見えにくいかどうか」をみんなで，話し合いながらじっくり考える。

【Ｐｔ２】
・できるだけ，目立つ「腕章・タスキ」等着ける。
・紙バサミやボード等にメモ用紙や地図などをはさむと便利。
・暑い日は帽子の着用を。（水筒等も用意）

【Ｐｔ３】・写真を撮る場合，人の顔や家の中を撮らない。プライバシーの侵害にならないように。）
・しゃがんで子ども目線で見る。
・なぜ撮影するのか，話し合う。
・撮った場所を地図にしるしをする。

【Ｐｔ４】・インタビューする時は，地域安全マップづくりの授業であることを知らせる。・挨拶や都合を聞き，終わったらお礼の言葉をしっかり言う。・聞く内容例「犯罪が起こりやすいと不安になる場所はありますか。」

犯罪が起こりやすい場所（＝危険な場所）とは？
キーワードは**「入りやすく」「見えにくい」場所**
「場所」に注目する

フィールドワークでの指導員・補助員の活動，留意点
（１）一歩下がって子どもたち全体を見ながら，道路側を歩くようにする。後から車や二輪車（バイク等），自転車が来たら，子どもに注意を促す。
（２）子どもたちが犯罪の起こりやすい場所に気づくのを待つ。気づかず通り過ぎたら，補助員は子どもに声をかけ，キーワードに照らし合わせ，「犯罪が起こりやすい場所」か否かを考えさせる。
（３）インタビューは，子どもたちにさせる。礼儀正しく行えるよう注意する。
（４）インタビューで地域住民から教えてもらった場所には，できる限り行ってみる。
（５）子どもの視点を，「不審者」から「危険な場所」に転換させる。

地図（地域安全マップ）の作成

フィールドワークを通して点検した犯罪が起こりやすい場所（危険な場所）や安全な場所を，グループごとに撮影した写真（危険な理由）を貼って地図にまとめる。

＜各班に準備するもの＞
- ○ 模造紙１枚
- ○ 折り紙（色紙）
- ○ 付箋（7.5×10cm 位）
- ○ シール(青，赤，黄色等)
- ○ 新聞紙
- ○ 糊，テープ
- ○ 色マジック（油性ペン）
- ○ 鉛筆，色鉛筆，消しゴム

＜ 手 順 ＞　～ 班員で分担して作業 ～

（１）道路，川，学校，公園，大きな建物など，点検（フィールドワーク）した地区の地図を描く。
※大事なのは写真のコメント（危険な理由，安全な理由）なので，細かいところまで描く必要はない。

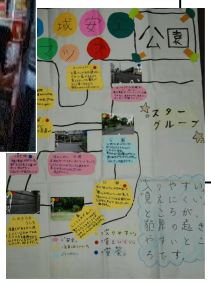
（２）同時進行で，安全マップの題字と班名を書く。

（３）危険な場所や安全な場所の写真を貼る。
※どの写真を使うかは，班内で話し合う。
※どの表札や車のナンバープレート等は消す。

（４）写真に，危険な理由（または，安全な理由）についてのコメント（意見）を折り紙や付箋紙に書き込み，写真のそばに貼る。

（５）なぜその場所が危険なのか，どうすれば安全なのかを書く。（班で話しあってもよい）

※ 班員全員に，必ず１枚以上書かせる。



「地域安全マップ」の発表会

（１）地域安全マップを黒板や掲示板に掲示する。

（２）地域安全マップづくりを班毎に，発表する。

（３）マップづくりを通して，点検（調査）結果や発見したことや苦労したこと，感じたことを発表する。
※ 必ず，班員全員が感想を発表する。

（４）発表会に，他学年の児童やスクールガード（学校安全ボランティア）や地域の方々，保護者，警察署員，市町村職員等を招く。

※ 上記の方々が参加してくれることで，地域の防犯意識の向上や行政施策への反映につながる。

関連事業 ○ちばっ子地域安全マップコンクールの実施
○地域で子どもを見守る支援集会の開催（教員，安全ボランティア対象）

千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課
安全室　　０４３－２２３－４０９１

説明具体例

補助員説明会(研修会)資料

1　地域安全マップとは

千葉県の子どもたちが犯罪に遭わないように，身を守る知識や危険な場所を見極める力を養う（身につける）ことができるよう

○　「犯罪が発生しそうな危険な場所」はどんな場所か

○　「守ってくれる安全な場所」はどんな場所か

などを，子ども自身でフィールドワークを通して探し，話し合いながら地図にまとめることを「地域安全マップ」という。

その際の危険な場所のキーワードは,**「入りやすい場所」「見えにくい場所」**です。

（この地域安全マップ作製の活動は，犯罪の機会を与えないことによって，犯罪を未然に防止しようとする「犯罪機会論」の考えによるものです。）

※　地域安全マップは「犯罪マップ」や「不審者（情報）出没マップ」とは違う！

地域安全マップ作製の目的は，犯罪が起きやすい危険な環境を子ども自身が見極める力を養うことにある。単に，犯罪が起きた場所や不審者が出没した場所だけを書き込ませていくと，子どもたちは「その場所だけが危険で，他の場所は安全」と考えてしまう。つまり，同じように危険な環境でありながら，たまたま犯罪の発生がなかったり，不審者が出没しなかった他の場所について,「危険な場所だ」と見極めることができない。

子どもたちに地域安全マップを作製させるときは,「犯罪が起きたから，不審者が出没したから危険な場所」と意識させるのではなく，子どもたちが「この場所は，こういう環境だから犯罪が発生しやすくて危険」,「この場所はこういう理由で不審者が出没しやすいから危険」と意識できるよう助言する。

したがって,「犯罪マップ」や「不審者（情報）出没マップ」,「危険箇所マップ」等とは違います。これらは大人が作製し，子どもたちに知らせるとよい。

2　地域安全マップになぜ取組むのか　（どんな効果があるのか）

（1）どんな条件の場所が危険かを理解できる。

⇒　子どもの危険予測能力や危険回避能力が向上する。

（2）コミュニケーション能力が高まり，友だち同士，地域の大人とのコミュニケーションが深まる。

（3）子どもたちの活動や地域安全マップに触れることで，地域の大人との結びつきが強くなり，地域の大人の防犯意識向上も望める。

（4）地域に愛着を持ち，地域社会の安全に貢献する活動を通すことにより，子どもたちの非行防止にもつながる。

（5）防犯教育　≠　人間不信　…　「場所」に焦点をあてることで,「人を信じるな」という教育でなくなる。「犯罪を犯すのは人」だが,「助けてくれるのも人」である。

３　補助員の役割

（１） 子どもたちが，不審者等の「人」ではなく，犯罪が起こりやすい「場所」に着目させる手助けをする。

（２） 子どもたちが主体となり，自ら体験し気づくことが重要なので，地域へ連れ出して実際に風景を見せ，考えさせる手助けをする。

（３） 「犯罪マップ」や「不審者（情報）出没マップ」,「交通事故発生マップ」等にならないように注意する。

（４） 補助員は，子どもたちが班毎に分かれて実施する「フィールドワーク」の補助をします。(各班に１名以上つくのが効果が上がります)

① 交通事故に遭わないように，一歩下がって全体を見ながら道路を歩く。
後から自動車やバイク，自転車等が来たら，子どもたちに注意する。

②補助員は，次のことを子どもたちが常に意識できるように指導します。

○探すのは「危ない人」ではなく,「犯罪が起こりやすい場所」

○「犯罪が起こりやすい場所」＝誰もが「入りやすく」,誰からも「見えにくい」場所

○子ども自身が気づき，その理由を考えるのが大切なので気づくまで待つ。

○子どもたちが気づかず通り過ぎようとしたら,「犯罪が起こりやすい場所」か違う場所かを考えさせる。

③具体的な補助方法（例）

補助員　「この道は危険？」
子ども　「危険！」
補助員　「どうして危険？　キーワードを使って説明できる？」
子ども　「向うからもこちらからもここにこられるから入りやすい。
　塀や生垣が高くて家の中から見てもらえないから見えにくい。」
補助員　「よく気づいたね。誰もが入りやすく，誰からも見えにくい場所だね。」

④フィールドワークでの写真撮影の際，プライバシーの侵害とならないように注意する。(人の顔や家の中，ナンバープレート等を撮ることのないように注意します。写ってしまったら，地図作製時に該当部分をマジックで黒塗りする。)

⑤インタビューは子どもたちが行うので，礼儀正しく行えるよう注意する。

⑥インタビューで地域住民から教えてもらった場所には,できる限り行ってみる。子どもの視点を,「不審者」から「危険な場所」に転換させる。

（５）地図作製時に補助員として参加の場合。(できるなら参加していただきたい。)

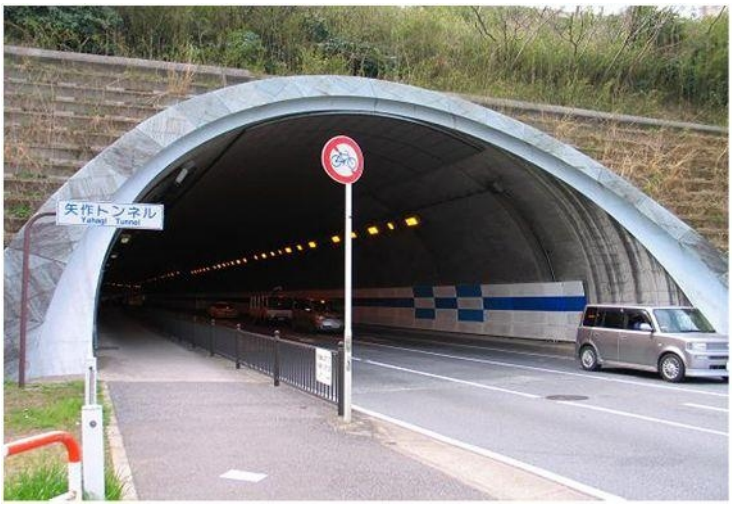
①子どもたちが作製することが重要なので,補助員は作業することのないように。

②子どもが写真を選んだ場合等，なぜなのか問いかけ考えをはっきりさせる。

③地図の完成が目的ではなく，危険予測能力や危険回避能力の向上が目的ですので，地図の正確性を気にすることはない。

④地図作製の作業に加われない子どもがいたら，無理に参加させるのではなく，担任に情報を提供し相談する。

「入りやすく」「見えにくい場所」の例示



トンネルは，両側から入ることができるので誰もが「入りやすく」，中は壁に囲まれていて誰からも「見えにくい」場所です。このトンネル構造が犯罪の起こりやすい場所の基本です。

建物と建物の間の路地は，屋根ないトンネルといえます。誰もが「入りやすく」，誰からも「見えにくい」場所です。

１階がガレージとなっている家が続いている道路です。見えやすい場所と思われがちですが，まるで 1 階部分に塀があるような構造です。つまりここもトンネル構造で，誰もが「入りやすく」，誰からも「見えにくい」場所です。

トンネルは物理的に誰もが「入りやすく」誰からも「見えにくい場所」です。さらに，そこに落書きがあれば，心理的にも「入りやすく」「見えにく場所」になってしまいます。

周りに水田が広がる場所のような「人の視線がない場所」

大きな駅の構内や駅前広場のような，「不特定多数の人が集まる場所」
（人々の関心や注意が拡散して
しまう場所）

最優秀賞　　君津市立北子安小学校

優秀賞　我孫子市立高野山小学校

優秀賞　酒々井町立大室台小学校

優秀賞　　旭市立中央小学校

入　賞　　神崎町立神崎小学校

入　賞　　横芝光町立横芝小学校

入　賞　　鎌ケ谷市立鎌ヶ谷小学校

入　賞　　市原市立京葉小学校

入　賞　　木更津市立八幡台小学校

入　賞　　袖ケ浦市立昭和小学校

平成２２年度「ちばっ子地域安全マップ」作成事業推進拠点校一覧

葛南教育事務所管内

No.	市町村名	小　学　校　名	教委担当課(室)	備考
1	船橋市	船橋市立咲が丘小学校	児童生徒防犯対策室	
2	市川市	市川市立曽谷小学校	指導課	
3	習志野市	習志野市立東習志野小学校	学校教育課	
4	八千代市	八千代市立勝田台南小学校	保健体育課	
5	浦安市	浦安市立南小学校	保健体育安全課	

東葛飾教育事務所管内

No.	市町村名	小　学　校　名	教委担当課(室)	備考
1	松戸市	松戸市立松飛台小学校	保健体育課	
2	柏市	柏市立藤心小学校	学校安全対策室	
3	野田市	野田市立川間小学校	指導課	
4	流山市	流山市立向小金小学校	指導課	
5	我孫子市	我孫子市立高野山小学校	指導課	
6	鎌ヶ谷市	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校	学務課	

北総教育事務所管内

No.	市町村名	小　学　校　名	教委担当課(室)	備考
1	佐倉市	佐倉市立下志津小学校	指導課	
2	成田市	成田市立本城小学校	教育指導課	
3	四街道市	四街道市立南小学校	学校教育課	
4	八街市	八街市立川上小学校	学校教育課	
5	印西市	印西市立永治小学校	学校教育課指導室	
6	白井市	白井市立大山口小学校	学校教育課指導班	
7	富里市	富里市立浩養小学校	学校教育課指導班	
8	酒々井町	酒々井町立大室台小学校	学校教育課	
9	栄町	栄町立布鎌小学校	教育総務課	
10	香取市	香取市立津宮小学校	学校教育課指導班	
11	神崎町	神崎町立神崎小学校	学校教育係	
12	東庄町	東庄町立神代小学校	学校教育係	
13	多古町	多古町立多古第二小学校	教育課	
14	銚子市	銚子市立船木小学校	学校教育課	
15	旭市	旭市立中央小学校	学校教育課指導班	
16	匝瑳市	匝瑳市立平和小学校	学校教育課指導班	

東上総教育事務所管内

No.	市町村名	小　学　校　名	教委担当課(室)	備考
1	東金市	東金市立日吉台小学校	学校教育課	
2	山武市	山武市立山武西小学校	学校教育課	
3	大網白里町	大網白里町立瑞穂小学校	管理課	
4	九十九里町	九十九里町立九十九里小学校	学校教育係	
5	横芝光町	横芝光町立横芝小学校	教育課	
6	芝山町	芝山町立芝山小学校	学校教育課	
7	茂原市	茂原市立二宮小学校	学校教育課	
8	一宮町	一宮町立一宮小学校	学校教育課	
9	白子町	白子町立南白亀小学校	教育課	
10	長柄町	長柄町立日吉小学校	教育課	
11	長南町	長南町立豊栄小学校	学校教育課	
12	睦沢町	睦沢町立土睦小学校	教育課	
13	長生村	長生村立八積小学校	学校教育課	
14	勝浦市	勝浦市立総野小学校	教育課	
15	いすみ市	いすみ市立国吉小学校	学校教育課	
16	大多喜町	大多喜町立総元小学校	教育課	
17	御宿町・ 布施学校組合	御宿町立御宿小学校	教育課	

南房総教育事務所管内

No.	市町村名	小　学　校　名	教委担当課(室)	備考
1	市原市	市原市立京葉小学校	指導課	
2	木更津市	木更津市立八幡台小学校	学校教育課	
3	君津市	君津市立北子安小学校	教育センター	
4	富津市	富津市立吉野小学校	学校教育課	
5	袖ケ浦市	袖ケ浦市立昭和小学校	学校教育課	
6	館山市	館山市立神戸小学校	教育総務課	
7	鴨川市	鴨川市立鴨川小学校	学校教育課	
8	南房総市	南房総市立丸小学校	学校教育課	
9	鋸南町	鋸南町立勝山小学校	教育課	

みんなで取り組む 千葉の教育

平成 23 年度
「ちばっ子地域安全マップづくりマニュアル」
平成 23 年 4 月　発行

千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課安全室

〒２６０－８６６２
千葉県千葉市中央区市場町１番１号